

創立147周年

学校便り



進取

令和5年度 No.10

令和6年2月28日発行

阿久根市立阿久根小学校
27学級 児童数439人

「節」ごとに 子供と共に成長を

校長 中村 一成

2月の全校朝会で、子供たちに「1月は行く（いぬる）2月は逃げる 3月は去る」のことわざを紹介し、3学期はあっという間に過ぎていくので、目標をもって、一日一日を大切に過ごしましょうと話をしました。早いもので今年度も残り一月余りとなりました。子供たちにとって、卒業そして、入学・進級と節目の時を迎えます。1月末には、新1年生の体験入学や保護者説明会もあり、新年度に向けた準備も進んでいます。また、



20日(火)には、4年生の「10歳を祝う会」がありました。成長した子供の姿、堂々と夢を語るわが子の姿に目がしらが熱くなった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。竹の生長に節が欠かせないように、子供たちの成長にもそれぞれの「節」が大切です。次へつなげる、更なる成長につながる目標を持てるよう、この時期を大切にしていきたいと思います。

先日、あるドラマを見ていると、コミュニケーションがうまく取れない子供を心配する親に向かって、次のようなセリフがあり、なるほどなと思いました。「子供のことを心配するのはどの保護者もいっしょです。子供って最初はほとんど何もできない。だから親とか一番近くにいる大人が心配して、困ったことがあれば何でも助けてあげる。でも人が生きていくということは、何か困ったときに助けてもらえる相手を、家族以外にどんどん増やしていくことではないですか。自分自身で世界を広げていく。それに、誰かに助けてもらったことがある人は、きっと誰かを助けることができるんです。」

私たち大人は、「転ばぬ先の杖」ではないですが、子供たちが失敗しないように、困らないように、何でもお膳立てしレールを引いてしまいがちです。もちろん、安全に関わること特に生命に関わることは、しっかり教え諭すことも大切です。ただ、ときには子供自身の考えに任せることも必要です。先日行われた学校保健委員会でご講演くださった川添まり子先生が、子供のやる気を引き出すメカニズムとして、子供自身に体験活動を通して試行錯誤させ、成功体験を（ときには失敗体験も）させながら、「もっとこうしたら？」「どうしたらできるのか？」と想像させることがやる気を引き出すとおっしゃっていました。本校の学校教育目標は、「友達と支え合い、共に伸びようとする子供の育成」です。友達との関わりの中で、うまくいくこともそうではないこともあると思います。その関わりを重ねるごとに子供たちは成長していきます。ぜひ、これからも、ときには出したい手を我慢して、温かく見守っていただけたらと思います。